「救いが訪れた家」

ルカ 19:1-10

2020.7.5 南与力町教会朝拝

序：

今日のザアカイのお話は日曜学校などでもよく語られる有名なものです。皆さんもよくご存じの方が多いのではないでしょうか。物語は前の箇所から続いています。前のところではイエス様がエリコという町に近づかれたとき、物乞いをしていた盲人をいやされたということが記されていました。そして今日の箇所ではイエス様がそのエリコに入って、そこを通っておられた。その時に起こった出来事です。

①ザアカイとイエスとの出会い

・ザアカイの人物像

19 章 2 節

「そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。」

「ザアカイ」という名前には「清い人、正しい人」という意味があります。しかし実際のザアカイは「清い人」と言うにはほど遠い人物でした。彼は「徴税人の頭」であった、と言われています。「徴税人」とは当時「罪人」の代表のような存在でした。ローマ帝国への税金を徴収する仕事を請け負い、同胞であるユダヤ人から税金を取り立てるのです。それだけでもユダヤ人からは裏切り者、売国奴のように見られていました。さらに当時の徴税人は規程以上の税金を取り立てて、その差額で私腹を肥やしてしたのです。ザアカイはそういう「徴税人の頭」でした。そういう意味では「罪人の頭」とも言える存在です。町中の人から嫌われていました。そして彼は「金持ち」であった、と言われている。不正を行なって私腹を肥やす徴税人の頭であれば当然かもしれません。エリコという町はエルサレムと結ばれた道にあり、交通の要となっており、税関が置かれていました。そのような町で徴税人の頭、長をしているのですから、相当裕福だったと思われます。

この「金持ち」についてはルカ福音書でこれまで何度も、ネガティブな仕方、否定的な仕方で語られてきました（ルカ 6:24, 12:13 以下、16 章など）。一番近い所で言えば 18 章 24 節 25 節にはこのようにあります。

「イエスは、議員が非常に悲しむのを見て、言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」

金持ちが神の国に入ることはそれほどに難しい、ほとんど不可能だと言われたのです。そういう意味では「徴税人の頭で、金持ち」のザアカイはほとんど救われる可能性がないような人物と言えます。しかしイエス様は人々から「それでは、だれが救われるのだろうか」と問われた際、次のように答えておられました。

「人間にはできないことも、神にはできる」

金持ちが救われるということは、人間にはできないこと、不可能なことです。しかし神にはできるのです。ザアカイが救われる今日のお話は、まさにそのことの実例なのです。

・イエスを見ようとするザアカイ(19:3-4)

ザアカイはイエス様がどういうお方かを見ようとしました。しかしイエス様を取り巻く群衆に遮られて見ることができませんでした。彼の背が低かったからである、と言われています。いくら背伸びをしても見ることができないほど彼の背は小さかったのです。たとえ背が小さくても彼に人徳があれば、誰かが場所を譲ってくれたかもしれません。しかし町中の人から嫌われているザアカイには誰も場所を譲ってくれませんでした。

しかしザアカイはそこで諦めませんでした。彼はイエス様が向かっている先にいちじく桑の木があるのを見つけました。そして走っていって先回りし、その木に登ったのです。今もエリコの町には「ザアカイの木」と呼ばれるいちじく桑の木があるそうです。その木は幹が短く、低い所から太い枝が出て、横に広がっているため、登りやすい木です。背の低いザアカイも登ることができました。

しかし考えてみますと、大の大人が木に登るということは普通しないことです。しかもザアカイは徴税人の頭という地位と力、財力をもった人でした。そんな人が木の登っていると人にばれたら、バカにされてしまうでしょう。しかしザアカイは自分が恥をかくことなどおかまいなしに、走っていっていちじく桑の木に登ったのです。それほどザアカイはイエス様のことを見たかったのです。なぜなのでしょうか。ザアカイの耳にもイエス様のうわさは届いていたことでしょう。そのうわさの中で、イエス様が徴税人や罪人と一緒に食事をされていること、人々から「徴税人や罪人の仲間だ」(7:34)と呼ばれていることも知っていたのではないでしょうか。だからこそ、「徴税人の頭」で人々からのけ者にされているザアカイはイエス様に魅力を感じたのだと思います。自分たち徴税人をも差別せず、一緒に食事をしてくださる、そして「徴税人と罪人の仲間」となってくださるイエス様とは一体どんな方なのだろうか。ぜひ一度自分の目で見てみたい。彼はそう思ったのです。だからこそ、群衆に邪魔されても諦めることなく、一心不乱に駆けていき、木に登ることまでしたのです。

しかし彼ができたのはそこまででした。イエス様を遠くから「見る」ということまででした。ザアカイとしては木の上から通り過ぎていくイエス様を見ることができれば、とりあえず満足だったでしょう。

ところがザアカイが思いもしていなかったことが起こります。イエス様がその場所に来ると、なんと上を見上げられたのです。そしてイエス様を見つめていたザアカイと目が合いました。そのまま通り過ぎると思っていたザアカイにとってはそれだけでも驚きだったでしょう。さらにイエス様は彼に言いました。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」

これはザアカイにとっては本当に思いがけないことでした。自分のことなど知らないと思っていたイエス様が、なんと自分の名前を知っておられたのです。そして「急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」と言われました。ここで「今日はぜひあなたの家に泊まりたい」と訳されている言葉は原文を見ますと「今日、わたしはあなたの家に泊まることになっている、泊まらなければならない」という強い表現が使われています。イエス様はただ「あなたの家に泊まりたい、泊まらせてほしい」と頼んだわけではないのです。もっと一方的に、「わたしは今日あなたの家に泊まることに決まっている」と言われたのです。このような言い方は他のイエス様の言葉にも出てきますが、それは神様のご計画と御心によって決まっている、だからそうしなければならない、という意味です。

その言葉を聞いたザアカイはイエス様から言われた通り急いで木から降りてきました。そして喜んでイエス様を自分の家に迎えました。そうしてイエス様をもてなしたのです。

②人々のつぶやき―ザアカイの回心―主イエスによる救いの宣言

しかしこれを見た人々は皆つぶやき合って言いました。

「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」

このようなつぶやきはこれまでにも出てきていました。律法学者やファリサイ派の人々がイエス様が徴税人や罪人と一緒に食事をするのを見てつぶやき、文句を言ったのです（ルカ 7:30、15:2)。しかし今回は「律法学者やファリサイ派の人々」ではなく、それを見た「すべての人」がつぶやいたのです。「イエス様はあんな罪深いやつの家に入って宿を取った」と。それほど町中の人がザアカイを嫌い、軽蔑し、関りを持っていなかったということでしょう。あんなやつの家にイエス様が泊まるということが納得できなかったのです。それで皆が不満を言い、つぶやいていました。

しかしザアカイは食事の席から立ち上がりイエス様に言いました。

「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」

こうしてザアカイは自らの回心、悔い改めを言い表わしたのです。彼はそれまで人からだまし取るようにして、財産を築いてきました。彼がなぜみんなから嫌われる徴税人になったのかわかりません。もしかしたら身長が低いことがコンプレックスとしてあり、周りからバカにされていたのかもしれません。それでみんなから税金を取り立てる徴税人になって、みんなを見返してやろう、そして富と権力を手に入れようと思っていたのかもしれません。そして実際彼はエリコの徴税人の頭にまで上りつめ、多くの富を手にしたのです。しかし、彼の心は満たされていなかったでしょう。富と権力を手にしたものの、結局は人々から「罪深いやつ」と軽蔑され、疎外されただけでした。しかし、イエス様は違いました。自分の名前を呼び、自分の家に来てくださった。罪深い自分にも分け隔てなく接してくださり、食事を共にし、交わりを持ってくださったのです。そのイエス様の愛に触れた時に、彼のかたくなになっていた心は溶けていきました。これまでの自らの罪を悔い改め、富に執着していた心が解き放たれました。それゆえ彼は自発的に、それまで積み上げた全財産の半分を貧しい人々に施すことを申し出ました。そして自分がだまし取ったものは４倍にして返すことを宣言しました。律法ではだまし取ったものは、五分の一を加えて賠償するように定められていましたので（レビ 5:24)、ザアカイはそれを上回る仕方で賠償しようとしたのです。彼はそれまでの生き方、お金の使い方において、180 度方向転換したのです。

そのザアカイの回心、悔い改めの言葉を聞いて、イエス様は言われました。

「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから」。

イエス様はまず「今日、救いがこの家を訪れた、実現した」と宣言されました。イエス様はザアカイに「今日、わたしはあなたの家に泊まらなければならない」と言っておられましたが、それはまさに「今日、救いがこの家に訪れるため」、「今日」という日に、救いがこの家に実現するためにだったのです。そのように神様の救いのご計画の中で定められていたわけです。さらにイエス様が「救いがこの人に訪れた」と言われず、「この家に訪れた」と言われたことにも意味があると思われます。つまり、イエス様によってもたらされた救いは、ザアカイ個人のみならず、その家、その家族にも及んでいく、ということです。実際、使徒言行録では家族まるごとの救い、ということが繰り返し語られています(使徒 11:14、16:15、

16:31)。
　そして「この家に救いが訪れた」理由としてイエス様は「この人もアブラハムの子なのだから」と言われました。エリコの町の人々はザアカイのことを「罪深い男」としてしか見ていませんでした。そしてそのこと自体は間違ったことではなかったでしょう。しかし、イエス様がザアカイを見る眼差しはそれとは違っていました。イエス様はザアカイのことを「アブラハムの子である」と見ておられたのです。すなわち神様がアブラハムに約束なさった祝福を受け継ぐべき「子孫」である、と見ていたのです。血統のことだけで言えば、ユダヤ人であれば皆「アブラハムの子」です。しかし、人々はザアカイのような罪深い男は神の救いにあずかる資格はない異邦人と同様に見なしていたことでしょう。だから人々はザアカイを差別し、自分たちから排除していたのです。しかし、イエス様は「彼もまたアブラハムの子である」と言われました。いかに罪深く、本人は神様の契約を破り、律法を破り、生きていたとしても、神様の目には「アブラハムの子、契約の子」であることに変わりはないのです。アブラハムとその子孫に対する神の憐れみと愛はとこしえに変わることがないのです。その神様の契約に対する真実、愛と憐れみこそ、ザアカイが救われた理由、ザアカイの家に救いが訪れた理由だったのです。

　さらにイエス様は最後の 10 節で次のように言われました。
「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

　これは先ほどお読みいただいたエゼキエル書 34 章の御言葉の成就としてイエス様が来られたということです。可能な方はお開きいただければと思います。旧約聖書 1352 ページ、エゼキエル書 34 章 11 節からのところです。まず 34 章 11 節 12 節
「まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探すように、わたしは自分の羊を探す。わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。」
　さらに 16 節
「わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。」

　そのようにイスラエルの牧者に代わって、神ご自身がご自分の散らされた羊を、失われた者を捜し求め、救い出す、と約束しておられました。
　さらに 23 節では
「わたしは彼らのために一人の牧者を起こし、彼らを牧させる。それは、わが僕ダビデである。彼は彼らを養い、その牧者となる。」

　すなわち、神ご自身が羊を捜し、救われるのですけれども、そのために、牧者としてダビデを、すなわち「ダビデの子」としてメシアを起こすとも約束なさっていました。
　イエス様はまさにそのような「牧者、羊飼い」として、失われた神の羊を捜し出し、救い出すために来られたのです。
　エリコの町で、ザアカイは「失われた」羊でした。自らの罪のゆえに人々から疎外され、神の羊の群れ

から迷い出し、失われた一匹の羊だったのです。エリコに入ったイエス様は最初からザアカイを捜しておられました。ザアカイの方もイエス様を見ようとある意味では捜していました。しかし、それ以上に、イエス様の方がはるかに熱心に、はるかに真剣にザアカイを捜しておられたのです。ただザアカイを見るためではありません、失われていたザアカイ、滅びつつあったザアカイを救うためです。ですからイエス様はザアカイに「今日、わたしはあなたの家に泊まらなければならない」と言われ、そしてザアカイが悔い改め、神に立ち返った際には「今日、救いがこの家を訪れた」と宣言されたのです。

私たちもともすると、ザアカイを軽蔑していたエリコの人々のように、あの人は「あの人は罪深い人だ、救われるわけがない」とレッテルを貼り、決めつけてしまうのかもしれません。

しかし、今日のザアカイ物語が示していることは、神様には、そしてイエス様には救うことの出来ない人など一人もいない、ということです。イエス様は私たちの一人一人のことも「失われた羊」として探しだし、救うために来てくださったのです。私たち一人一人の名前を呼び、ご自分との愛の交わりの中に招き、そうして救い出そうとしてくださっています。わたしたちにとって大切なことは、ザアカイのようにその招きに喜んで応え、イエス様をお迎えすることです。そしてイエス様との愛の交わりの中で、私たちは悔い改めに導かれ、その実を結んでいくことができます。

「失われたものを捜して救うために来てくださった」イエス様に感謝し、このお方に望みを置いて、歩んでまいりましょう。祈ります。